

装い行動が高齢者の QOL に及ぼす影響に関する研究  
Dressing Behavior and Quality of Life in Older People

安永 明智<sup>\*1+</sup>, 野口 京子<sup>\*1+</sup>, 谷口 幸一<sup>\*2+</sup>  
Akitomo Yasunaga<sup>\*1+</sup>, Kyoko Noguchi<sup>\*1+</sup>, and Koichi Yaguchi<sup>\*2+</sup>

\*1 文化女子大学現代文化学部 東京都小平市上水南町 3-2-1  
Faculty of Liberal Arts and Science, Bunka Women's University,  
3-2-1 Josuiminaicho Kodaira-shi, Tokyo, Japan

\*2 東海大学健康科学部

School of Health Sciences, Tokai University,

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学  
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture  
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract: The purpose of the present study was to examine association between dressing behavior and quality of life (QOL) in older people. Participants included 156 males (mean age, 76 years old) and 144 females (mean age, 76 years old) who were free-living Japanese healthy adults. In January 2010, we measured the dressing behavior and the QOL using a questionnaire. ANCOVA analysis showed that the QOL assessed by functional capacity, depression and IKIGAI (the meaning of life) was significantly better in people with higher interest in dressing behavior than in people with lower interest in dressing behavior in both males and females. Likewise, participating in volunteer activities in both sexes and frequency of going outdoors in males were significantly greater in the group of participants who had higher interest in clothing and fashion. These results suggest an importance of greater interest in dressing behavior for maintaining QOL in older individuals.

## はじめに

サクセスフル・エイジングやアクティブ・エイジングといった言葉に代表されるように、高齢期を積極的に過ごし、いつまでも健康的で幸福な老後を送ることは、少子高齢社会が急速に進行するわが国における重要な課題である。つまりは、単に長寿を全うするだけでなく、日常生活での生活の質 (Quality of Life; QOL) を高めていくことが高齢期の最大の目標となる。このような背景からも、ここ数年諸外国をはじめとしてわが国でも、高齢者の心の健康や身体的自立であらわされる QOL を維持・増進するための要因に関する研究が実施されている。中でも、日常生活において服装や化粧などの装い行動に対して積極的に関心を持つことは、心身の健康維持・増進に非常に有効な手段であることが先行研究によって報告されている[1][2]。これは、装いに関心を持つことが、メンタルヘルスを高めると同時に、積極的な外出の態度の形成や日常身体活動の活性化につながり、QOL の改善を導いていくものと予測されるからである。しかし、わが国にお

---

\*1) [yasunaga@bunka.ac.jp](mailto:yasunaga@bunka.ac.jp)

いて、高齢者の服装への関心の程度と QOL の関係を、外出や社会参加などの関連要因を含めて包括的に検討した研究は、ほとんど存在しない。

そこで本研究は、装い行動が、高齢者の活動能力や生きがい、メンタルヘルスなどで評価される QOL にどのような影響を与えるのかについて、質問紙調査法を用いて検討することを目的とする。本研究の推進は、服飾文化と健康という新しい学問分野の開発につながるであろう。

## 調査方法

2010年1月に全国の70歳以上の高齢者を対象に、装い行動とQOLに関する質問紙調査を実施した。調査は、NTTレゾナント株式会社 goo リサーチに委託し、299名(男性156名、女性143名)のデータを収集した。

対象者の服装への関心は、自分の服装、他人の服装、流行への関心の程度について、「非常に関心がある」「ある程度は関心がある」「あまり関心がない」「全く関心がない」の4件法で回答を求めた。分析に際しては、「非常に関心がある」と「全く関心がない」と答えた者が少数であったため、「非常に関心がある・ある程度は関心がある」と「あまり関心がない・全く関心がない」の2つのカテゴリーに再分類した。また、外出時の着装基準について、高齢者版着装基準尺度(田中ら、1998年)[3]を用いて評価した。本尺度は、個人的服装嗜好、流行、機能性、社会的服装規範の4つの下位因子から構成されており、得点が高いほど着装行動において、その基準を重視することを意味する。本研究では、QOL を評価する指標として、生きがい尺度(近藤・鎌田、2004)[4]、老人用うつスケール(Geriatric Depression Scale; GDS)(矢富、1994)[5]、老研式活動能力指標(古谷野ら、1987)[6]を用いた。他に、人口統計学的要因(満年齢、一人暮らしか否か、主観的な経済状況)、日常生活動作能力(Activities of Daily Living; ADL)(食事、入浴、着替え、排泄、歩行)、外出の頻度、ボランティアや町内会活動への参加の有無について尋ねた。

各変数のデータについては、連続変数は平均値±標準偏差(回答数)、離散変数は回答数(割合;%)で示した。服装への関心の程度と連続変数の関係は、満年齢を調整した共分散分析を用いて、服装への関心と離散変数の関係は、フィッシャーの正確確率検定及び $\chi^2$ 検定で分析した。欠損値は、分析毎に除外した。全ての分析は、Statistical Package for Social Science 16.0 (SPSS Inc., Chicago, IL)を用いて実施し、5%未満を有意水準として採用した。

## 調査結果

### 対象者の特徴

対象者の平均年齢は、75.8±4.8歳(男性75.9±4.4歳;女性75.8±5.1歳)であった。一人暮らしの者の割合は、5.4%(男性3.8%;女性7.0%)、経済状況は、余裕がある9.1%(男性6.5%;女性12.0%)、ふつう80.5%(男性87.1%;女性73.2%)、困っている10.4%(男性6.5%;女性14.8%)であった。ADL得点は、5点満点で4.9±0.5点(男性4.9±0.4点;女性4.9±0.6点)と高い得点を示した。

## 自分の服装への関心と各変数の関係

男女とも、自分の服装に「関心がある・ある程度は関心がある」と答えた者が、「あまり関心がない・全く関心がない」と答えた者と比較して、高齢者版着装基準尺度の3つの下位因子得点(個人的服装嗜好、流行、社会的服装規範)及び老研式活動能力指標の合計得点と全ての下位因子得点、生きがい得点が、統計学的に有意に高かった。また、ボランティアや町内会活動への参加の割合も高かった。GDS に関しては、「あまり関心がない・全く関心がない」と答えた者が、「関心がある・ある程度は関心がある」と答えた者よりも高い得点を示し、うつ傾向が強いことが示された。

表1. 自分の服装への関心と各変数の関係

Table 1. Interest in one's own dressing behavior and QOL scores.

	男性		女性		
	非常に関心がある・ ある程度は関心がある	あまり関心がない・ 全く関心がない	非常に関心がある・ ある程度は関心がある	あまり関心がない・ 全く関心がない	
年齢 1), a)	75.3±3.7 (103)	77.1±5.4 (53)	75.3±4.9 (116)	77.2±5.6 (27)	
ADL得点 1), b)	4.9±0.1 (103)	4.8±0.6 (53)	4.9±0.5 (114)	4.7±1.1 (27)	
家族形態 2), c)					
一人暮らし	3 (2.9)	3 (5.7)	9 (7.8)	1 (3.8)	
それ以外	100 (97.1)	50 (94.3)	107 (92.2)	25 (96.2)	
経済状況 2), d)					
余裕がある	7 (6.9)	3 (5.7)	15 (12.9)	2 (8.0)	
ふつう	91 (89.2)	44 (83.0)	86 (74.2)	17 (68.0)	
困っている	4 (3.9)	6 (11.3)	15 (12.9)	6 (24.0)	
外出時の着装の基準 1), b)					
個人的服装嗜好得点	24.4±3.9 (103)	20.4±4.2 (53)	** 25.5±3.9 (113)	21.6±4.4 (26)	**
流行得点	11.4±2.7 (102)	7.7±2.4 (53)	** 11.9±2.5 (115)	8.4±2.6 (27)	**
機能性得点	13.7±2.4 (102)	13.3±3.2 (53)	15.1±2.5 (112)	14.3±2.5 (27)	
社会的服装規範得点	12.1±2.3 (103)	10.3±2.5 (53)	** 12.5±2.3 (114)	11.2±3.0 (27)	*
外出の頻度 2), d)					
ほとんど毎日	42 (41.2)	12 (23.1)	39 (34.2)	5 (18.5)	
週に4,5日	24 (23.5)	12 (23.1)	28 (24.6)	4 (14.8)	
週に2,3日	24 (23.5)	17 (32.6)	31 (27.2)	12 (44.5)	
週に1日程度・全くなし	12 (11.8)	11 (21.2)	16 (14.0)	6 (22.2)	
ボランティア活動への参加 2), c)					
参加している	44 (42.7)	11 (21.2)	** 38 (33.6)	4 (14.8)	*
参加していない	59 (57.3)	41 (78.8)	75 (66.4)	23 (85.2)	
老研式活動能力指標 1), b)					
手段的自立得点	4.8±0.5 (102)	3.9±1.7 (53)	** 4.7±0.9 (112)	4.0±1.9 (26)	*
知的能動性得点	3.8±0.5 (102)	3.0±1.0 (53)	** 3.7±0.7 (115)	3.0±1.3 (27)	**
社会的自立得点	3.3±0.9 (102)	2.3±1.4 (53)	** 3.3±1.0 (113)	2.4±1.4 (27)	**
合計得点	11.9±1.4 (102)	9.2±3.4 (53)	** 11.7±2.0 (110)	9.4±4.0 (26)	**
GDS得点 1), b)	2.7±3.0 (99)	5.2±3.8 (52)	** 3.3±3.2 (105)	7.0±4.6 (27)	**
生きがい得点 1), b)	42.5±5.6 (102)	37.3±6.7 (52)	** 42.5±5.7 (106)	35.6±9.0 (26)	**

1); 平均値±標準偏差(回答数), 2); 回答数(%)

a); 対応のないt検定, b); 年齢を調整した共分散分析, c); フィッシャーの正確確率検定, d);  $\chi^2$ 検定

\*; &lt;.05, \*\*; &lt;.01

## 他人の服装への関心と各変数の関係

男女とも、他人の服装に「関心がある・ある程度は関心がある」と答えた者が、「あまり関心がない・全く関心がない」と答えた者と比較して、高齢者版着装基準尺度の全ての下位因子得点(女性の機能性得点を除く)及び老研式活動能力指標の合計得点と全ての下位因子得点、生きがい得点が、統計学的に有意に高かった。また、ボランティアや町内会活動への参加の割合も高かった。GDSに関しては、「あまり関心がない・全く関心がない」と答えた者が、「関心がある・ある程度は関心がある」と答えた者よりも高い得点を示し、うつ傾向が強いことが示された。加えて、男性においては、他人の服装への関心の程度が高い者ほど外出の頻度が多かった。

表2. 他人の服装への関心と各変数の関係

Table 2. Interest in others' dressing behavior and QOL scores.

	男性			女性		
	非常に関心がある・ ある程度は関心がある	あまり関心がない・ 全く関心がない		非常に関心がある・ ある程度は関心がある	あまり関心がない・ 全く関心がない	
年齢 1), a)	74.8±3.4 (67)	76.7±5.0 (89)	*	75.4±4.6 (105)	76.5±6.1 (38)	
ADL得点 1), b)	5.0±0.0 (67)	4.9±0.5 (89)		4.9±0.5 (103)	4.7±0.9 (38)	
家族形態 2), c)						
一人暮らし	3 (4.5)	3 (3.4)		9 (8.6)	1 (2.7)	
それ以外	64 (95.5)	86 (96.6)		96 (91.4)	36 (97.3)	
経済状況 2), d)						
余裕がある	6 (9.0)	4 (4.5)		15 (14.6)	2 (5.3)	
ふつう	57 (85.0)	78 (88.7)		76 (73.7)	27 (71.0)	
困っている	4 (6.0)	6 (6.8)		12 (11.7)	9 (23.7)	
外出時の着装の基準 1), b)						
個人的服装嗜好得点	25.1±4.2 (67)	21.4±3.9 (89)	**	25.4±4.2 (103)	22.9±4.0 (36)	**
流行得点	12.2±2.8 (66)	8.6±2.5 (89)	**	11.9±2.6 (104)	9.3±2.7 (38)	**
機能性得点	14.3±2.6 (66)	13.0±2.6 (89)	*	15.1±2.5 (101)	14.6±2.7 (38)	
社会的服装規範得点	12.9±2.3 (67)	10.5±2.2 (89)	**	12.6±2.3 (103)	11.2±2.8 (38)	**
外出の頻度 2), d)						
ほとんど毎日	31 (47.0)	23 (26.1)	*	33 (31.8)	11 (29.7)	
週に4,5日	15 (22.7)	21 (23.9)		26 (25.0)	6 (16.2)	
週に2,3日	14 (21.2)	27 (30.7)		30 (28.8)	13 (35.2)	
週に1日程度・全くなし	6 (9.1)	17 (19.3)		15 (14.4)	7 (18.9)	
ボランティア活動への参加 2), c)						
参加している	34 (50.7)	21 (23.9)	**	35 (34.3)	7 (18.4)	*
参加していない	33 (49.3)	67 (76.1)		67 (65.7)	31 (81.6)	
老研式活動能力指標 1), b)						
手段的自立得点	4.8±0.5 (66)	4.3±1.4 (89)	*	4.7±0.8 (101)	4.2±1.8 (37)	*
知的能動性得点	3.9±0.5 (66)	3.2±1.0 (89)	**	3.7±0.6 (104)	3.1±1.3 (38)	**
社会的自立得点	3.4±0.7 (66)	2.6±1.3 (89)	**	3.3±0.9 (103)	2.7±1.4 (37)	*
合計得点	12.1±1.1 (66)	10.1±3.1 (89)	**	11.8±1.8 (100)	9.9±4.0 (36)	**
GDS得点 1), b)	2.7±3.3 (63)	4.2±3.6 (88)	*	3.4±3.2 (95)	5.9±4.7 (37)	**
生きがい得点 1), b)	43.6±5.1 (67)	38.6±6.6 (87)	**	42.4±5.7 (95)	37.9±8.8 (37)	**

1); 平均値±標準偏差(回答数), 2); 回答数(%)

a); 対応のないt検定, b); 年齢を調整した共分散分析, c); フィッシャーの正確確率検定, d);  $\chi^2$ 検定

\*; &lt;.05, \*\*; &lt;.01

## 流行への関心と各変数の関係

男女とも、流行に「非常に関心がある・ある程度は関心がある」と答えた者が、「あまり関心がない・全く関心がない」と答えた者と比較して、高齢者版着装基準尺度の全ての下位因子得点(女性の機能性得点を除く)及び老研式活動能力指標の合計得点と全ての下位因子得点(女性的手段的自立因子得点を除く)、生きがい得点が、統計学的に有意に高かった。また、ボランティアや町内会活動への参加の割合も高かった。GDS 得点に関しては、「あまり関心がない・全く関心がない」と答えた者が、「関心がある・ある程度は関心がある」と答えた者よりも高い得点を示し、うつ傾向が強いことが示された。加えて、男性では、他人の服装への関心の程度が高い者ほど外出の頻度が多く、女性では、流行への関心の程度が高いほど経済状況に余裕があると答えた者の割合が高かった。

表3. 流行への関心と各変数の関係

Table 3. Interest in fashion and QOL scores.

	男性		女性		
	非常に関心がある・ ある程度は関心がある	あまり関心がない・ 全く関心がない	非常に関心がある・ ある程度は関心がある	あまり関心がない・ 全く関心がない	
年齢 1), a)	75.1±3.6 (59)	76.3±4.8 (97)	75.1±4.6 (93)	76.8±5.7 (50)	
ADL得点 1), b)	4.9±0.1 (59)	4.9±0.4 (97)	4.9±0.5 (91)	4.8±0.8 (50)	
家族形態 2), c)					
一人暮らし	3 (5.1)	3 (3.1)	9 (9.7)	1 (2.0)	
それ以外	56 (94.9)	94 (96.9)	84 (90.3)	48 (98.0)	
経済状況 2), d)					
余裕がある	4 (6.8)	6 (6.3)	15 (16.1)	2 (4.2)	*
ふつう	54 (91.5)	81 (84.3)	69 (74.2)	34 (70.8)	
困っている	1 (1.7)	9 (9.4)	9 (9.7)	12 (25.0)	
外出時の着装の基準 1), b)					
個人的服装嗜好得点	24.9±4.2 (59)	21.8±4.1 (97)	** 25.6±3.9 (91)	23.1±4.4 (48)	**
流行得点	12.5±2.6 (58)	8.8±2.6 (97)	** 12.3±2.4 (92)	9.3±2.6 (50)	**
機能性得点	14.2±2.4 (59)	13.2±2.8 (96)	* 15.2±2.6 (89)	14.6±2.5 (50)	
社会的服装規範得点	12.5±2.5 (59)	10.9±2.4 (97)	** 12.8±2.4 (91)	11.3±2.6 (50)	**
外出の頻度 2), d)					
ほとんど毎日	29 (50.0)	25 (26.0)	* 30 (32.7)	14 (28.6)	
週に4,5日	11 (19.0)	25 (26.0)	22 (23.9)	10 (20.4)	
週に2,3日	13 (22.4)	28 (29.2)	27 (29.3)	16 (32.6)	
週に1日程度・全くなし	5 (8.6)	18 (18.8)	13 (14.1)	9 (18.4)	
ボランティア活動への参加 2), c)					
参加している	31 (52.5)	24 (25.0)	** 34 (37.8)	8 (16.0)	**
参加していない	28 (47.5)	72 (75.0)	56 (62.2)	42 (84.0)	
老研式活動能力指標 1), b)					
手段的自立得点	4.8±0.5 (58)	4.3±1.4 (97)	* 4.7±0.8 (89)	4.3±1.6 (49)	
知的能動性得点	3.9±0.3 (58)	3.3±1.0 (97)	** 3.8±0.6 (92)	3.2±1.1 (50)	**
社会的自立得点	3.5±0.8 (58)	2.6±1.3 (97)	** 3.4±1.0 (91)	2.7±1.3 (49)	**
合計得点	12.2±1.1 (58)	10.2±3.0 (97)	** 11.9±1.8 (88)	10.1±3.5 (48)	**
GDS得点 1), b)	2.3±2.6 (55)	4.3±3.8 (96)	** 3±2.9 (84)	6.0±4.4 (48)	**
生きがい得点 1), b)	43.9±4.3 (59)	38.8±6.8 (95)	** 42.7±5.7 (84)	38.4±8.1 (48)	**

1); 平均値±標準偏差(回答数), 2); 回答数(%)

a); 対応のないt検定, b); 年齢を調整した共分散分析, c); フィッシャーの正確確率検定, d);  $\chi^2$ 検定

\*; &lt;.05, \*\*; &lt;.01

## まとめ

本研究は、70歳から95歳までの高齢者299名を対象に、装いへの関心と外出時の着装基準、外出の頻度、ボランティアや町内会活動への参加、活動能力、うつ、生きがいの関係を質問紙調査によって検討した。その結果、外出時の服装選択基準において、自分や他人の服装や流行への関心が高い者は、関心の低い者と比較して、個人の嗜好や流行、社会的な規範を重視することが明らかとなった。また、服装や流行に関心が高い高齢者は、(1)外出の頻度が多く、ボランティアや町内会活動に積極的に参加していること、(2)活動能力やメンタルヘルスが良好であること、(3)生きがい感が高いことが確認された。本研究の結果は、高齢期のQOLの維持・増進に装いへの関心を積極的に持つことが重要であることを示唆する。

## 参考文献

1. 箱井英寿、上野裕子、泉加代子、福岡欣治、田中優:「高齢者のファッションセラピーに関する基礎的研究」, 第7回「健康文化」研究助成論文集, pp.75-82(2001).
2. 小林茂雄:「老人ホームにおける衣生活とおしゃれ行動」, 繊維機械学会誌, Vol.53, No.6, pp.229-236 (2000).
3. 田中優、秋山学、泉加代子、上野裕子、西川正之、吉川聡一:「高齢者の自律と着装行動に関する研究」, 繊維消誌, Vol.39, No.11, pp. 716-722(1998).
4. 近藤勉、鎌田次郎:「高齢者の生きがい感に影響する性別と年代から見た要因」, 老年精神医学雑誌, Vol.15, No.11, pp. 1281-1290 (2004).
5. 矢富直美:「日本老人における老人用うつスケール(GDS)短縮版の因子構造と項目特性の検討」, 老年社会科学, Vol.16, pp. 29-36(1994).
6. 古谷野亘、柴田博、中里克治、芳賀博、須山靖男「地域老人における活動能力指標の測定—老研式活動能力指標の開発—」, 日本公衆衛生誌, Vol.34, pp109-114(1987).